

# 早稲田大学 社会科学部 日本史 講評

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	例年の社会科学部らしい難しさはなかったが、早稲田大の出題傾向に沿った学習をしていたか否かで、点差のつく問題ではあった。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代の文化	問1が難問で、問3・9がやや難しかっただろう。問4は設問文に「飛鳥時代の」という条件がついているところが作問ミスであったため、大学当局は全員正解としたようだ。ただし伽藍配置については、図を用いた問題がよく出題されるが、説明文を使った正誤問題も珍しくない。	標準
II	中世の政治・経済	ひどく単純な誤文が多く、早稲田の正誤問題らしくない。ただし問7では撰銭令の正しい内容を理解しなければならないことがよくわかるだろう。	やや易
III	江戸時代の法制度	早稲田定番の問題が目立つ。問7・8でつまずいた人は、それが正解できる学習法とはどういうものかを考えてほしい。文化史を勉強する際に、出題率はもちろんのこと、その語句の意味までつかんでおかなければならないことがわかるだろうか。	易
IV	蟹工船・国体明徴声明	この大問は難しそうに見えるが、全問正解も不可能ではない問題である。その方法については、「早大日本史の検証」で説明するので、ここでは割愛する。	やや易

### 【難易度の表記について】

<易> 全問正解できる問題です

<やや易> 1問を除いて、残りは正解できる問題です

<標準> 2問を除いて、残りは正解できる問題です

という具合になっています。